

小美玉市の
 文化・芸術 総合情報誌

おみた *magazine*

OMITA MAGAZINE



アートと交わる
 わたしがひかる

撮影：齋藤 友幸
 モデル：廣木 葵、矢口 華

小美玉市の文化・芸術 総合情報誌 おみた magazine 第174号

〒319-0132 茨城県小美玉市部室1069 TEL: 0299-484466
 【企画・取材】みのんば編集局(四季文化館みのれ内)
 【編集・発行】小美玉市生活文化課 令和5年5月25日発行

小美玉文化情報
 日々発信中!
 アピオス
 みのれ
 コスモス
 f f
 @



Omitama
 きらりびと



■ 編集後記
 若い人たちに読んでもらえるようにデザイン性を高める。幅広い年齢層の人たちも手に取って読みたくなる。長い間、私たちの夢だった思いを込めて、このたびおみたmagazineをリニューアルしました。アピオス・みのれ・コスモスの輝きを伝え、行ってみたい、参加してみたいと感じてもらえますように。(藤田 佐知子)

■ みのんば編集局
 編集長 藤田 佐知子
 記者 遠藤 雅樹、加藤 篤子、瀧澤 比佐乃、戸祭 陽菜、福島 ヤヨヒ、保田 孝雄
 カメラマン 赤上 恵、齋藤 友幸
 ■ アートディレクター/デザイナー 清水 すず菜 (つばめ座)

対話の文化の継承

Taiwan Bunka no Keicho

取材・撮影
瀧澤比佐乃
齋藤友幸

昭和40～50年代に隆盛を誇った青年団から
みの～れに受け継がれた「対話の文化」。
アピオス・コスモス、ダイヤモンドシティプロジェクト、
ヨーグルトサミットからシティプロモーションによって市内外へ。
広がり続ける小美玉の「対話の文化」を色濃く受け継ぐ
みの～れ演劇関係者の2人に聴く。



俳優・モデル・ワークショップデザイナー **Aoi Hiroki** × 美野里中演劇部 部長 **Hana Yaguchi**

文化芸術分野から他分野へ。
市外にも広まる小美玉の対話の文化。

矢口 廣木さんの演技を観て演劇を始めたので、今日是对談できてとても嬉しいです。
廣木 そうだったんですね。私も嬉しいです。みの～れ20歳のリレートーク、矢口さんたち美野里中演劇部が未来へのメッセージを呼びかけたシーン、感激しました。
矢口 廣木さんに褒めていただけて自信になります。ありがとうございます。対談のテーマが「対話の文化」ですが、廣木さんはどうやって身につけたのか教えてください。
廣木 私は人生において大切なことはほとんど演劇ファミリーMyuで教わりました。Myuは現在小学1年生から80代までキャストとスタッフ総勢100人います。子どもたちも大人に混じって作品を創るのがMyuの伝統で、舞台創作を通して対話を学び、実践しています。意見が分かれたときには、リーダーが対話の場をつくり、みんなが納得感を得られるようプロセスを大事にして合意し、自分の意見と違うものが採用されても自分事として受け入れ、力を合わせる。これが「対話の文化」です。矢口さんは演劇部で「対話の文化」を感じることはありますか？
矢口 私たちも、作品づくりをするときに意

見が分かれることもあります。何度も話し合い、役割分担を確認し、部員の個性を活かす活動に取り組んでいますが、うまくいかないこともあります。廣木さんはそのようなときにどうしていますか？
廣木 「対話の段階」と「決断の段階」を分けて考えるようにみんなに伝えます。「対話の段階」ではお互いの考えのズレを認識し認め合うことに注力します。対話が進むと共通認識が増え、対話量が減ります。ここが決断のタイミングです。みんなで決断するときにはメリット・デメリットを明らかにして、理性的に比較検討して決めることが大切です。これが納得感につながります。
矢口 なるほど、勉強になります。この「対話の文化」が社会生活で役に立ったことはありますか？私は学校で、特に友達の間では自分の意見を伝えずに聞き役に回ってしまうことが多いです。
廣木 「会話」と「対話」は違う、とMyuで教わりました。価値観や生活習慣に近い親しい者同士のおしゃべりが「会話」で、あまり親しくない者同士の価値観や情報のすり合わせが「対話」です。自分と相手の考えを対等

PROFILE
俳優・モデル・演出家・振付師・ワークショップデザイナー
廣木 葵
小美玉市生まれ、俳優・モデル・演出家・振付師・ワークショップデザイナー。桜美林大学芸術文化学群卒。幼少期よりみの～れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」に所属。大学時代から都内を中心に芸能活動を開始。Myuの演出を手掛け、地域人財の育成に尽力している。



PROFILE
美野里中演劇部部長
矢口 華
美野里中学校3年、演劇部部長。子どもの頃、Myuのミュージカルで主役を演じる廣木葵さんの演技に感動し、演劇部に入部。部長として要の役割を果たしている。今年7月の卒業公演に向け、部員全員が一丸となって邁進していると話す。



取材に立ち会って

に扱い、自分と違う意見も否定せずに一旦受け止めることを重んじます。対話を実践するうちに、仕事や学問を通して出会った年上の方にも、自分の言葉で話をする事ができるようになりました。「対話の文化」は、文化芸術分野だけでなく、社会のさまざまな分野でも必要とされています。私がMyuで経験を積んだように、若い世代や子どもたちを信頼して、役割を任せて経験を積ませてあげられる社会でありたい。そのフォローをするのが私たち大人の役目だと思います。
矢口 任せられることは自信につながり、さらに意欲が湧いてくると思います。部活動の中でも、後輩の意見から気づかされることもたくさんあります。気持ちを素直に言葉にし

て伝えることを心がけています。
廣木 世代や立場の違う人同士が意見を交わすには、相手を思いやる気持ちと工夫が必要ですね。「対話の文化」は、社会の中でも重要視され、対話のスキルを伸ばす力がある演劇が教育現場で注目されています。「対話の文化」を日常的に育てている小美玉市の文化芸術活動は、東京に出てから「素晴らしい価値がある」と気づきました。矢口さんも実践し続けてくださいね。
矢口 はい、頑張ります。私たち演劇部もご指導いただけたら嬉しいです。
廣木 はい、ぜひ。出身校に関われるのは嬉しいことなので、ぜひ実現しましょう。
矢口 ありがとうございます！

学校生活では同じような趣味や考えの人が集まる場面が多いですが、自分とは違った意見の人とのつながりも大切にしていきたいです。多くのことを学ぶ機会になりました。
美野里中演劇部 副部長 **荷見 建成**さん
人と対話していて意見の違いがあると大変だと思いがちですが、自分には思いもよらない意見が出てくることもあります。気づきの場として楽しんでいきたいです。
美野里中演劇部 副部長 **草川 仁美**さん



Bunka no Keicho

CROSS TALK

Vol. 01



瀧澤 比佐乃
四季文化館企画実行委員会
副委員長

代表を務めるチームBIRDの森には、大学生が3人参加している。若い世代が参加したくなる秘訣は得意分野での活動と、その人に合った参加の仕方。「使える時間は各々違う、という当たり前のことを受け入れることが大事」。



田村 智子
小川文化センター活性化委員会
副委員長

熱意が周りに伝わって、みんなの心が動くと、次々と奇跡的なことが起こる。これを体験したら「もう文化ホール無しの人生は考えられなくなっちゃう」と田村さん。文化ホールは「家でも職場でもない、大切なサードプレイス」。



菊地 方美
コスモスプロジェクト
副委員長

自分の意見を言いつらい世の中で、文化ホールの会議は言いやすい。そこに「対話の文化」の秘密があるのではないかと語る菊地さん。嫁いできたばかりの頃、知り合いが全くいなかったが「コスモスに救われた」。

撮影：赤上 恵 / 取材：戸祭 陽菜

文化芸術分野から他分野へ。 市外にも広まる小美玉の対話の文化。

『対話の文化』を意識した経験

菊地 文化ホール関係の会議以外だと「こうやりたいです！」ってなかなか自分の意見を言いつらくありませんか？何でだろうといつも思うんですけど、そこに「対話の文化」の秘密がありそうですよね。

田村 確かにそうかもしれません。文化ホールの現場は、自分が思うことを言いやすい雰囲気づくりがされていますよね。必ず一旦は「それいいね」と受け入れるような心がけ、「自分は必要とされている」と感じる人を増やしていきたいな、と思います。

瀧澤 「対話の文化」を実践する中で教わった「心理的安全性」をいつも意識しています。私自身、会議の場は自分から発言しづらいので、お茶を飲みながら、作業しながら世間話する機会を設けるようにしています。普段は表に見えてこない価値観、経験、考えを語ってもらえるような場づくり、雰囲気づくりが大事ですね。

新しい流れを生む

菊地 私は市外から嫁いできて、はじめは友達がいなかったんですよ。子どもを連れてコスモスに通うようになりました。昔の私のような人の居場所をつくりたい、という思いが、私がコスモスで活動し続ける原動力です。

田村 アビオスの企画に来てくれた知り合いに「いつも楽しそうにしているね。輝いてるね」と言われたから、「一緒にやらない？」って誘ったら嬉しそうに「ありがとう」と言ってくれて、本当に参加してくれました。この経験から思うのは、やっぱり文化ホールは人生を充実させるために大切な場だということ。普通に暮らして

いたら出会わなかった人たちが、楽しんでもらいたい人の顔を思い浮かべながら一緒に企画して、達成感を味わえる場。これが小美玉には3館もあるなんて最高ですよ。瀧澤さんのチームには若い人が多いけれど、どうやって呼び込んでいますか？

瀧澤 若い人は時間の使い方が違う、ということをいつも念頭に置いています。学校、家庭、子育てなどに追われ、他のメンバーと同じようには動けないという当たり前のことを心から共有するようにしています。それぞれ得意分野で時間や作業を分けつつ、「みんなでやっている」「ありがとう」ということを積極的に発信しようという心がけています。

菊地 それぞれの生活スタイルがある以上、全員が同じ時間で同じ熱量を出し合うことはとても難しいですね。そこをしっかりとフォローしてマネジメントしている瀧澤さん、すごい！

田村 楽しいだけで集まるわけではないんですよね。熱量を持った人たちの本気が周りに伝播していき、みんながじわじわ熱くなっていく。情熱が伝わって、最終的に「じゃあ私も！」と心が動いて仲間になっていく。この伝播がとてつもないエネルギーを生み出して、次々と奇跡的なことを起こしていくことを体験したら、もう文化ホール無しの人生なんて考えられなくなっちゃうのよね。

文化ホールはサードプレイス

瀧澤 3人とも文化ホールで達成感を味わい、自分が必要とされている喜びを感じていることが活動の原動力なのだと感じました。これからも3館で高め合っていけたら嬉しいな、と思います。

菊地 コスモスのロケーションがとっても素敵だと2人が褒めてくれて嬉しかったです。今日のことをコスモスのメンバーに共有しますね。文化ホールの可能性を改めて認識できる良い場でした。

田村 3人とも、家や職場にはない自分が文化ホールにある、文化ホールはサードプレイスだという共通認識でした。楽しかったです。ありがとうございました！

取材に立ち会って

3館の企画を司る副委員長の皆さんが、それぞれ館に対する強い思いを持っていることがひしひしと伝わってくる対談でした。3人とも「対話の文化」が根底にあって、互いの良さを認め合い、文化ホールで得られることに共感しあっている光景がとても素敵だと思いました。私は大学で社会教育を学び、みの～れの住民主体のまちづくりを研究しています。この対談を通じて「対話の文化」について学べたので、今後の研究に活かしていきたいです。



筑波大学4年
戸祭 陽菜さん

青年団直伝の 対話の文化

- 組織編成が大事
 - 信頼で結ばれる中核3人がいる
 - 対話の場は7～8人にする
 - 必ず男女混合にする

- 対話→決断のルール
 - 全員出席が大原則
 - 全力で知恵を出し汗をかく
 - 人の意見を一旦受け入れる
 - 決議方法を全員で決める
 - 決めたことは全員が必ず守る

対話は「意見を聞き合う場」
会議は「次の行動を促す場」

CULTURE REPORT

2023年3月11日 / みの〜れ
和太鼓ワークショップ

目的別に2回に分けて実施。1回目は国際交流を目的として外国籍の参加者で開催しました。太鼓の演奏は観たことはあっても、実際に叩くのは全員が初めての体験。緊張しながらも「日本の文化に触れることができ、楽しい思い出ができた」と語り、会場に笑顔が溢れました。2回目は、親子の和太鼓体験。元気いっぱい腕を振り上げ、太鼓を響かせていました。(加藤 篤子)



2023年4月1日 / アピオス
アピオス映画まつり

春休みのお楽しみにとアピオスで初めての映画上映会が開催されました。大ホールの大きな画面では人気の「トップガン」2作品。小ホールでは子ども向けにディズニー作品が上映され、床に敷かれたカーペットに寝転んだり、椅子の間を行ったり来たり自由に映画を楽しんでいました。キッチンカーの出店もありましたが、あいの雨。次回が望まれます。(福島 ヤヨビ)



2023年3月29日 / みの〜れ
はじめての金管楽器教室

「音が出る」「合奏する」楽しさを体験する金管楽器教室(全4回)が開かれ、小学3〜6年生15名が参加しました。講師は鴨志田真広さんとContiNEWのメンバー。最終日には成果発表が行われ、小川地区から参加した草場優輔さん(小4)は「聖者の行進はむずかしかったけど、トランペットが吹けるようになって楽しかった。今度は違う楽器もやってみたい」と嬉しそうに話してくれました。(藤田 佐知子)



2023年4月8日 / みの〜れ
小美玉さくらフェスティバル2023

3年ぶりにみの〜れに満開のさくらが咲きました。コロナ禍で中止を余儀なくされてきましたが、実行委員はこれまではなかった新たなさくらを育てていました。市内のアーティストやみの〜れ内の様々な企画を子どもたちに体験してもらい、「アーツ」という通貨での報酬を得て館内で買いたいものを楽しむまでがセット。大人も子どもも瞳キラキラな春の1日でした。(遠藤 雅樹)



2023年 6〜8月のイベント pick up

※ 営利目的ではなくどなたでも入場無料で「文化情報イベント情報掲載申込書」にて申込をした催しのみ掲載しています。※ このスケジュールは2023年5月4日に作成したものです。

開催日	イベント	開演	場所	主催・お問い合わせ先	料金
6月11日(日)	LaBreeze かぜのいち	10:00〜16:00	みの〜れ風のホール	LaBreeze運営委員会 0299-59-0025	無料
6月9日(金)〜 6月11日(日)	小美玉市文化協会祭	9:00〜17:00 最終日は 15:30まで	コスモス	文化協会事務局(大山) 090-9017-4859	無料
6月16日(金)〜 6月18日(日)			みの〜れ		
6月23日(金)〜 6月25日(日)			アピオス		
7月30日(日)	永井音楽教室サマーコンサート	13:00〜17:00	みの〜れ森のホール	永井 由美子 090-2243-8612	無料
8月6日(日)	ピアノ発表会	12:30〜16:00	みの〜れ森のホール	きのご音楽教室 080-4359-0608	無料

INFORMATION

ばーどのもりのぶれかーにばる



■日時 6/25 10:30〜14:30
■会場 みの〜れ風のホール
■金額 入場無料(一部有料)
8月6日「ばーどのもりのぶれかーにばる」のプレイベント。未就学児をメインに楽しめるワークショップです。ひかるたまごぬり絵やみんなで大きなボードにぬり絵する企画をご用意しています。

■ 予約不要・そのまま入場OK / 0299-48-4466(みの〜れ)

はじめての脚本講座



■日時 7/2,9,17 13:30-15:00
■会場 みの〜れ
■金額 1,500円(全3回分)
■講師 Myu文芸部
中学生以上。10名。演劇の脚本をどのようにして書いているのか解説し、実際に書いてみるプログラムです。10分程度の小作品を書く予定。毎回宿題あり。

■ 申込開始 5月21日(日)10:00〜 / 0299-48-4466(みの〜れ)

はじめての金管楽器教室



■日時 8/8-11 19:00-20:30
■会場 みの〜れ練習室1.2.3
■金額 3,000円(全4回)
■講師 ContiNEW
小3〜6年生対象。15名。楽器を全く触ったことがなくても大丈夫。イチからじっくりゆっくりやってみて、「音が出る」「合奏する」うれしさ・楽しさを体験できます。楽器はお貸しします。

■ 申込開始 6月18日(日)10:00〜 / 0299-48-4466(みの〜れ)

APIOs DANCE STADIUM 2023



■日時 8月20日(日) 14:00
■会場 アピオス
■金額 500円
■全席指定(3歳以下入場不可)
多彩なジャンルのダンスチームが一堂に会するショー・コンテスト。観客の皆さんの投票によりグランプリが決まります。屋外ではキッチンカーも出店し、イベントを盛り上げます。

■ 発売開始 7月1日(土)10:00〜 / 0299-58-0921(アピオス)

みの〜れ演劇ワークショップ



■期日 7/2,9,17,23,30 8/5,6
■会場 みの〜れ風のホール
■金額 3,500円(全7回分)
■講師 大野 ユウジ、廣木 葵
プロの俳優で演出家の2人から、年齢別クラスで楽しく演劇を学びます。
①リトル(小1-3。10:00-11:30)
②ジュニア(小4-6。13:00-15:00)
③ミドル(中1-3。15:30〜17:30)
④レギュラー(一般。18:30-21:00)

■ 申込開始 5月21日(日)10:00〜 / 0299-48-4466(みの〜れ)

光と風のステージCue vol.69



■日時 7月15日(土) 19:00
■会場 みの〜れ
■金額 1,000円(ドリンク付)
■出演 LA★MISSYU, JOY

7月の光と風のステージCueは夏期限定の屋外特設ステージにて「サマーナイトライブ」を行います。土曜日の夜はみの〜れでドリンク片手に音楽を楽しんでみませんか。

■ 発売開始 5月14日(日)10:00〜 / 0299-48-4466(みの〜れ)

あのころの記憶



■日時 8月13日(日) 14:00
■会場 みの〜れ
■金額 入場無料(要整理券)
■全席自由

「思い出」と一言に言い切れないくらい、大切な記憶はありますか。夢いあのころの体験を、世代を超えて、大切な人達と共有したい、そんな思いが込められた公演。短編映画の上映を行います。

■ 配布開始 6月13日(火)10:00〜 / 0299-48-4466(みの〜れ)

演劇Crew Cosmo's「不思議の国のアリス」



■日時 8月20日(日)
■会場 コスモス
■金額 入場無料(要整理券)
■全席自由

2008年の「国民文化祭いばらき」をきっかけに結成された演劇Crew Cosmo's。第17回目となる今回は、世界の名作「不思議の国のアリス」を上演します。

■ 配布開始 7月22日(土)9:00〜 / 0299-26-9111(コスモス)